

医師臨床研修制度、新専門医制度に思う

呉医療センター・中国がんセンター 血液内科 高蓋 寿朗

私は1987年に広島大学を卒業しました。当時の広島大学では、内科系はすでにローテート研修がありました。多くの医局では直接入局が主流で、ほとんどの卒業生は広島あるいは出身地の大学の医局に入局していました。そんな中、私は、当時から救急、麻酔科を含めた内科系ローテート研修ができた神戸市立中央市民病院で研修しました。全国から集まったよくいえば多士済々、悪く言えば異端児の同期15名で厳しくも楽しい2年間を過ごしました。「そんな研修したらそのあと医局に入れんで、どうするん？」という忠告も受け、不安も覚えていましたが、結果的には自分にあったよいスタートができたと思っています。

当時は、まさか今のようなマッチングシステムができて、一般病院で初期研修を受けることが当たり前となるとは思ってもみませんでした。そして2017年度からは新専門医制度が開始されることが決定しています。そんな今、新しい制度にわれわれはどう取り組むべきか、若い卒業生たちはどう対応するべきなのか、自分なりの考え方を書き留めておこうと思います。

まず、2004年に始まった新医師臨床研修制度についてですが、その前年、私はとある大学に在籍していました。その大学での研修制度に関する会議における医学部幹部の「私たちの世代は旧インターン制度をつぶした世代です。その私たちが今回の研修医制度を始めるという事実には不思議な巡り合わせを感じ、身の引き締まる思いです」という発言が非常に印象に残っています。そして始まった研修制度は、ある意味迷惑通り(?)にかつての医局制度を破壊して、混乱を巻き起こした後、すでに10年を経過して落ち着くところに落ち着いてきているように思えます。それぞれの病院の規模、特色を活かして研修プログラムを作成し、指導体制も強化することで多くの病院の質も結果的に向上したのも事実だと思っています。

ただ、研修プログラムのモデルがしっかり示され、ほとんどの病院である程度の研修が受け

ることができるようになる一方、逆に各施設の多様性が失われたような気がしてなりません。昔のような「制度」のない中の方が、独自の研修システムを誇る病院が輝いていたような気がします。現在の「制度」の中でもきらりと光る特徴をだせるようわれわれも努力を続けなければなりません。新卒業生の諸君にも、研修病院の「知名度」「病院、官舎がきれい」「給料がよい」などのトレンドに惑わされることなく、自分なりの大きな挑戦ができる病院を選択してほしいと思います。

次に、新専門医制度ですが、「日本専門医機構」のホームページを開きますと、「専門医」とは「それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、十分な知識・経験を持ち、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師と定義されます」と記されています。このような「専門医」を育成するために、現在、ある種乱立する専門医の整理、新プログラムの作成、評価方法の検討が急ピッチで進められています。広島県医師会でも勤務医部会を中心として、この新専門医制度にどう取り組んでいくべきか、協議を始めています。

制度の開始にあたって、もっとも高いハードルは「複数の施設群でプログラムを作成しないといけない」という点であろうと私は考えています。以前のような「医局体制」がほとんど存在しない中、専門医を目指す若い医師の地位、立場を各研修施設で維持しながら、適正な配置、レベルの高い研修などが維持できるのか、課題は多いような気がします。

現在、1年目の初期研修医のみなさんは、この新制度の中で専門医を目指すこととなります。前例がない中での研修は不安が多いと思いますが、自分自身の研修に取り組む姿勢がしっかりしていれば、整備されたプログラムの中で高いレベルの専門医を目指すことができるものと思います。一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。